



西諫早図書館文学講座

～枕草子を楽しむ「春はあけぼの」から～

10/13(水)・15(金) 18:30～20:30 西諫早図書館

枕草子の文学講座を開催します。申し込みはカウンターまたはお電話にてお願い致します。お気軽にお申し込みください。



～お知らせ～

9月11日(土)に開催予定だった雑誌リサイクルは延期になりました。



図書館カレンダー (9月)

20冊・3週間 借りられます



今月の展示

小説

長崎ゆかりの本

実用書

夏の手づくり

おとなも自由研究!
戦後 76年



館員おすすめの一冊

『神さまの貨物』

ジャン=クロード・グランベール/著 (ポプラ社)

「むかしむかし、大きな森に、貧しい木こりの夫婦が住んでいた。」という書き出しで始まる、童話のようなフランス文学です。厳しい寒さの日、森の中を走り抜ける貨物列車の小窓から、一人の赤ちゃんが貧しいおかみさんの前へ投げられます。ずっと子どもが欲しかったおかみさんは、厳しい生活の中、何度も危険な目に遭いながら、その子を大事に育てていきます。

実は、この物語の背景には、世界大戦があります。初めに登場する暗い森の中を走る貨物列車は、ユダヤ人を強制収容所へ移送するためのものです。この小説は、必死の思いでわが子をおかみさんに託したあるユダヤ人の家族の物語と、子どもを守り育てる貧しい木こりの夫婦の物語が交錯する形で進んでいきます。2021年の本屋大賞では、翻訳小説部門の第2位にも選ばれました。

物語の背景になった歴史は重く辛いものですが、一貫して、おかみさんたちの愛情の深さと子どもを守る人々の信頼が描かれており、読んだ後は切なくも温かい気持ちになれます。短い小説ですが、しっかりと胸に残る感動の作品です。暗い冬の森に佇む女の子の表紙が目印。

ぜひ手に取ってみてください。(M)



新刊紹介



この他にもたくさんあります!
貸出中の本には予約ができます

『ホンモノの偽物』	リディア・パイン	
『楽しい昆虫料理』	内山 昭一	ビジネス社
『循環器のしくみ』	阿古 潤哉/監修	マイナビ出版
『カラダに効く!タンパク質まるわかり BOOK』	藤田 聡/監修	学研プラス
『クライ・ムキの毎日のおうち服とおしゃれ服』	クライ・ムキ	主婦の友社
『手で編むみんなの布ぞうり』	小石 正子	河出書房新社
『俗語百科事典』	米川 明彦	朝倉書店
『白光』	朝井 まかて	文藝春秋
『明日は結婚式』	小路 幸也	祥伝社
『もどかしいほど静かなオルゴール店』	瀧羽 麻子	幻冬舎
『硝子の塔の殺人』	知念 実希人	実業之日本社
『愛についてのデッサン 野呂邦暢作品集』	野呂 邦暢	筑摩書房



西館日和



日中はまだまだ暑いですが、少しずつ日の出が遅く日の入りが早くなってきました。暑くて雨の多かった今年の夏が秋へと移り変わろうとしているようすを感じます。

今年の中秋の名月は9月21日だそうです。東の空に堂々として夜を照らす美しい月が見えてくるのを毎年楽しみにしています。月を見ながらお団子をお供えされている方もおられることでしょう。我が家でも時間に余裕があるときにはお団子を作ります。

暑かった夏が終わり涼やかな秋風に吹かれながら月をながめるお月見の風習は、遠い昔から受け継がれています。思うように旅行などができない現状ですので、離れて住んでいる家族や友人と連絡を取り、同じ時間に美しい月を眺めながら会話をしてみたいかがでしょうか。また、画面越しに互いが見えている月夜の情景を共有するのも楽しいかもしれません。耳を澄ませたときに BGM のように秋の虫の歌声が聞こえてくると更に自然を感じる事ができます。

そうして訪れる秋の夜長に、どうぞ図書館の本を手にとり読書をお楽しみください。

分館長 野下